

第54回愛知県野生生物保護実績発表大会 ～輝く未来のいきものサポーター～を開催しました

愛知県では、野生生物の保護意識の普及・啓発と、環境保全意識の高揚及び生物多様性の主流化を図るため、愛知の未来を担う子供たちが主体となって実践する取組を発表する本大会を1971年度から開催しています。2024年度は、以下のとおり開催しました。

1 開催概要

- (1) 日 時
2024年8月1日(木) 午前10時30分から午後3時まで
- (2) 場 所
刈谷市産業振興センター 7階 小ホール (刈谷市相生町1-1-6)
- (3) 発表団体
8団体(小学校2校、中学校2校、高等学校4校)
- (4) 参加者数
約150名
- (5) 発表プログラム
別紙のとおり

2 入賞団体一覧

賞	入賞団体名
愛知県知事賞	岡崎市立生平小学校
	豊田市立滝脇小学校
	愛知県立佐屋高等学校
愛知県教育委員会賞	岡崎市立河合中学校
	愛知県立三谷水産高等学校
愛知県自然観察指導員連絡協議会賞	学校法人桜丘学園桜丘高等学校
公益社団法人愛知県獣医師会賞	岡崎市立東海中学校
	愛知県立渥美農業高等学校

—発表プログラム—

【午前 の 部】

時 間	発 表 団 体 名	発 表 テ ー マ
10:15	開 場	
10:30	開 会	
10:40	発 表 開 始	
各校の 発表時間 【10分間】 審査委員との 質疑応答 【約5分間】	1.岡崎市立生 ^{おいだいら} 平小学校	守ろう！ 野鳥がすみ続ける『ふるさと生平』
	2.豊田市立滝 ^{たきわき} 脇小学校	私たちの愛鳥活動 知ろう！滝脇の自然 守ろう！私たちの森 広げよう！地域へ
	休憩（約 10 分間）	
	3.岡崎市立河 ^{かわい} 合中学校	河合の宝 ゲンジボタル ー伝統の継続 そして一歩前進ー
	4.岡崎市立東 ^{とうかい} 海中学校	未来へつなぐ襷 ～希少生物と共に生きる地域の未来～
12:00頃	午前の部 終了	

【午後 の 部】

13:05	開 場	
13:20	発 表 開 始	
各校の 発表時間 【10分間】 審査委員との 質疑応答 【約5分間】	5.愛知県立渥 ^{あつみ} 美農業高等学校	渥農カメプロジェクト！ ～5年目の集大成～
	6.愛知県立佐 ^{さや} 屋高等学校	ナゴヤダルマガエルや水生昆虫の保全に向けた稲わらの活用に関する研究
	休憩（約 10 分間）	
	7.学校法人桜 ^{さくらがおか} 丘学園 桜 丘 高等学校	ビオトープをつくる
	8.愛知県立三 ^{みや} 谷水産高等学校	ニホンウナギの保護活動について 石倉カゴによる資源量、生態の調査
15:00頃	午後の部 終了・閉会	

3 開催状況

【小学校の発表】		
1	1.岡崎市立生 ^{おいだいら} 平小学校	守ろう！ 野鳥がすみ続ける『ふるさと生平』
	「知る」・「守る」・「広げる」・「つなげる」をテーマに、ウォッチングカードの作成、ツバメの営巣数と巣立ちの調査、オリジナル探鳥会など各学年に応じた内容で、地域と連携した愛鳥活動を実施。 2024 年2月、校内で新たに「ふるさと生平」愛鳥宣言を行い、学校全体で愛鳥意識を高めている。4月には、市の広報誌市政だより「おかざき」で、愛鳥活動の取組がトップページの特集記事として取り上げられている。	
		
2	2.豊田市立滝脇 ^{たきわき} 小学校	私たちの愛鳥活動 知ろう！滝脇の自然 守ろう！私たちの森 広げよう！地域へ
	年間で「知る」「守る」「広げる」愛鳥活動を実践し、野鳥との共生に努めている。今年度は、営巣調査にファイバースコープを用いるなど、鳥に警戒心を与えないよう調査方法を工夫した。特に本年度のテーマを「人と鳥との関わりについて」と題し、人が設置した巣箱に営巣に成功した条件や、アクシデントにより失敗した事例など、事細かに分析が行われた。巣立ちの様子をとらえた動画は、子供たちの様子も含め、印象深かった。	
		

【中学校の発表】		
3	かわい 岡崎市立河合中学校	河合の宝 ゲンジボタル ―伝統の継続 そして一歩前進―
自然科学部では、天然記念物となっている「岡崎ゲンジボタル」を絶やさないよう、餌となるカワニナを含め幼虫を飼育し放流している。幼虫期に雌雄を判別するため、去年は模様の違いに着目し調査を行ったが、成果は得られなかった。今回は、体長・重さに着目し、飼育ケースを分けて育成し、羽化までの様子を観察したところ、一定のレベルで分別できることがわかった。引き続き、地域のホタルを保全するとともに、ホタルについて調査・研究を行っていく。		
		
4	とうかい 岡崎市立東海中学校	未来へつなぐ襷 ～希少生物と共に生きる地域の未来～
生息数が減少したカワバタモロコの保護について、池の環境づくりのほか、校内の屋外バスタブにおける繁殖、池への放流を行っている。魚の保護・繁殖のほか、環境保全と地域への啓発なども併せて実施している。このほか、池に生息するカワバタモロコ以外の生物（ドジョウ・メダカなど）についても捕獲調査を行った。学校や池の周辺には色々な生物（カワセミ、ヤマカガシ、イノシシ、鹿など）が生息していることが観察できたが、現在建設中の大型商業施設の立地により環境の変化が危惧される。		
		

【高等学校の発表】		
5	愛知県立 ^{あつみ} 渥美農業高等学校	渥農カメプロジェクト！ ～5年目の集大成～
地元の黒川池に生息するカメは、ニホンイシガメしかいないことが判明し、このニホンイシガメの保全に地元企業の協力・支援を得ながら取り組んでいる。重要なことは、多くの場所で、侵略的外来生物であるミシシippアカミミガメが席巻しているなか、黒川池は侵略を受けておらず、保全すべき池であることの現状を知ってもらうということで、池での捕獲調査や中学校・こども園での出前授業、市内店舗にポスターを掲示する等の啓発活動を行った。また、ミシシippアカミミガメを適切に駆除するためには、食材として活用できないかと発想し、先生方の協力のもと調理して試食し、今後の可能性を見出した。		
 		
6	愛知県立 ^{さや} 佐屋高等学校	ナゴヤダルマガエルや水生昆虫の保全に向けた稲わらの活用に関する研究
今年度は、学校近くの水田に生息する水生昆虫とカエルに着目した研究の発表があった。除草されていない水田では、水生生物が多くみられたことから、雑草の繁茂により水生生物の住みやすい環境が生じたと仮定した。この仮定に基づき、敷きわらをする・しない環境の違いによるナゴヤダルマガエルの越冬調査を行った。この結果、敷きわらには、効果が認められた。今後はカエルの保全に力をいれつつ、この水田で作られる米づくりにも一役買って、「カエル米」として販売促進している。		
 		

7	学校法人桜丘学園 さくらがおか 桜 丘 高等学校	ビオトープをつくる
	豊川と朝倉川の合流部の低地にあった水田を埋め立てて造った桜丘高校の野球グラウンドの余剰地に生物部の活動の場として、「ビオトープ」を整備することとなった。ビオトープの中心となる池は、重機を使い造成したほか、廃船も利用して池づくりをした。池には水生生物・水生植物を導入し、ビオトープの整備を進めた。ビオトープには様々な生き物が集まり、生息するようになったので、適正に管理し後輩に引き継いでいきたい。また、一般の方にも見てもらえるようなビオトープにするよう通路の整備をしたい。	
8	愛知県立 みや 三谷水産高等学校	ニホンウナギの保護活動について 石倉カゴによる資源量、生態の調査
	現在、ウナギは絶滅危惧種 I B 種に分類されるほど、漁獲量が減少しており、学校の前を流れる西田川の生息状況を確認した。石倉カゴ（網と石で作った人工構造物）を設置して、石の隙間に隠れたウナギを捕獲し、PIT タグをつけて標識放流をするなどの調査した。タグをつけることにより、再捕獲した個体は、成長率などを確認するほか、胃の内容物を確認することで、食性調査も行った。石倉カゴによる調査に有用性が確認されたため、継続的に調査を実施し、ウナギの生態解明や保護につなげていきたい。	

